

店頭から  
「こんにちは」

第 63 回

## つらさが身に染みる 牡蠣大好き人間として痛感を

夕食時、メールが入りました。  
どうやら牡蠣にあたった様子です…。



### 6年経った今も…

牡蠣の養殖は、鯛や鰯などの魚の養殖と違って、餌をあげる必要がありません。「海中のプランクトンが餌だから」というお話を聞いたことがあります。

東北は、海水がきれい、プランクトンが豊富なため、牡蠣の養殖が盛んでした。

しかし、東日本大震災で牡蠣棚が全滅を。6年経った今も、完全には復活していないのが、牡蠣好きの1人として残念に思います。

### あ〜っ、もったいない

ある日、仕事が終わ、熱燗をのみながら夕食をとっていました。いつもは仕事から離れたら、メールを見ることはないのですが、たまたまスマートフォンを見ていると、お客様からメールが。

「先ほどレストランで、牡蠣フライ定食を食べた妹が、30分ほどトイレにこもりきり。下痢と嘔吐を繰り返しています。牡蠣フライが原因かどうか不明ですが、とりあえず手持ちのおクスリをのませ

ていいでしょうか」

私も牡蠣ではつらい思いをしたことがあるので、痛いほどよく分かります。

「食べて、さほど時間が経たないうちの症状だから、病原菌によるものというより、牡蠣毒が原因とされます。体内に入った牡蠣をすべて出して、そのおクスリをのませていけば、大丈夫です」

そう、返信しました。すると、「明日、病院へ行ったほうがいいでしょうか？」とも。

そこで、「すべて出してしまえば、明日はケロリとしているはず。病院へ行っても、あとの祭りですよ。行く必要はありません」と。2〜3日してから、ご本人が来られたので、当日の様子と、その後の経過を聞いてみると――。

「指示していただいたとおりで、翌日は何ごともなかったかのように元気でした。病院へも行きませんでしたね」

安心しました。とはいえ、この人も今後、牡蠣を絶対に口にはしないのでしょうか？

あ〜っ、もったいない…。

### ご無事で何より…

さて、先ほどメールをくれた女性、大学の英語の先生で、毎年、学生を引率して海外へ。

今年は、イタリアへ行くと聞いていました。その引率旅行のころ、ちょうどイタリア中部で、強い地震があったという報道が。

心配しながら、実家のお母様に安否の確認をすると、帰国直後の出来ごとだったとのこと。

世界中のどこで、どんなことに遭遇するか分からない現代です。

ましてや、自然が相手なら、運を天に任せるしかなさそうですね。「ご無事で、何より」と、思うことしきりでした。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師  
みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「待望の春。からだを動かしていきましょう」

